

Doc. No. 699A

Page 1

No. 248 (31/72 E/40)

MEMORANDUM

On the 24th December, 1938, the British Ambassador handed to the then Vice-Minister for Foreign Affairs a memorandum respecting outstanding Anglo-Japanese cases in China.

In continuation of that document Sir Robert Craigie now communicates a further memorandum regarding the present position of the most serious cases still outstanding. It will be observed that some of the cases mentioned were included in the representations made in 1938, and these have been marked with an asterisk for convenience of reference. It is requested that special attention may be given to these cases, which have been outstanding for more than 2 years, and in particular to the Yangtze claims, which are perhaps the gravest example. It will be seen that no progress has been made regarding these claims and that no payment whatever has been made in respect of them by the Japanese Government, although the latter's assurance that compensation would be given is now nearly 3 years old.

The

W 1028
Da. 699A

標題... 支那於英日英間ノ諸懸案ニ関スル覺書

元四〇年(昭和十五年)十月二十二日

坂本

覺書

一九三八年(昭和十三年)十二月二十四日英國大使ハ當時ハ外務次官ニ對シ、支那ニ於ケル日英間ノ諸懸案ニ関スル覺書ヲ手交セリ。

該書類ニ引續キロバート・クレーギー卿 SIR ROBERT CRAIGIE
ハ今尚未解決ノ最重要ナル事件若干ノ現情ニ関シ、更ニ一通ノ覺書ヲ只今通達スルモノナリ。

右ニ掲ゲラレタル諸事件、或ルモノハ一九三八年(昭和十三年)ニ屬サレタル若干ノ抗議申入中ニ包含サレタルヲ認メ得ベク、之等ハ參照ニ便ナラシメンガ爲星印ヲ以テ標示シ置キタリ。

是等事件ハ二十年以上ニ亘リ懸案トナリ居ルモノニシテ就中恐ラク最モ重大ナル實例タル揚子江關係ノ若干ノ要求ニ對シ特別ノ注意ノ拂ハレシコトヲ要求スルモノナリ。

右ニ依リ御覽ノ通り之等ノ要求ニ對シテ何等ノ進捗モ見セズ、又賠償ヲ支拂フベシトノ日本政府ノ保證ガ與ヘラレテ以來約二十年ニ亘トスル今日其等ニ對シテ日本政府ヨリ何等ノ支拂モ爲サレズ未済ノ儘トナリ居ル次第ナリ。該明細表ガ一切ヲ網羅スベク意圖ヲ以テ作製サレタルモノニ非サルコトヲ外務省ニテ了解セラルヲ欲ス。

尚該明細表中ニ含メシ居ル案件中十二件ヲ下付ルモノニ関シ、英帝國大使館ガ呈表ニ爲シタル申入ガ今以テ何等ノ回答モ與ヘラレズ有リト謂フ事ヲ了解セラルベシ。該事件中、多數ハ二十年以上モ其再未解決ニアル次第ニ付、是等全案未

Doc. 699A.

件ニ對シ速カナル調査ガ與ヘラルレハ英國大使ノ感謝ニ堪エザル所ナリ。

在東京英國大使館

一九四〇年(昭和十五年)十一月二十二日。

支那ニ於ケル日英間ノ懸案摘要

A — 一般

一 鐵道問題

(a) 北京奉天鐵道

- (1) 一九三三年(壬戌年)上海ノ五ノ一 / SHANGHAI-FENGCHIANG / 五海一鐵道ノ鐵道抵當債償還借款、未拂
- (2) METROPOLITAN CAMEL CARRIAGE CO. / 會社ニ對スル債務未拂
- (3) 及(4) ハ主トシテ日本軍ノ鐵道使用ニ關スル代償未拂(起因ス)
- (5) 國際協定ニ違反シテ熱河ニ到ル併行鐵道線ノ敷設
- (6) 英國關係ノ諸權益迄ニ該鐵道ニ關スル國際條約ヲ全ク無視スル北支諸鐵道ノ統合

第一回申入

一九三七年(昭和十二年)

十月十一日

現

狀

之等ノ諸問題ハ一九三七年(昭和十二年)十月以降屢ホ抗議中ニ指摘セラレタル所ナリ。一九三六年(昭和十一年)七月二十日石井氏ヨリ英國ノ權利ヲ侵害スル意圖無シトノ嚴密ノ保證ヲ與ヘタル書狀有リタルモ日本官憲ノ行動ニ依リ犯サレタル條約違反ニ對シテ何等満足スベキ説明ナシ。又日本側ノ行動ニヨリ是等種々ナル形ヲ無視カレ來リタル英國ノ權益ヲ尊重スベキ何等満足ナル措置採ラレ居ラス。京奉鐵道ノ建設ニ關スル國際間ノ協定ニ及ビ北支鐵道諸機關ハ日本ノ支配下ニ在リ事業会社ニ依リ接收サレトシテ居リシ事莫クニ關スル諸報告ニ對シ英國大使ハ一九三四年(昭和九年)三月二十四日達意ヲ喚ビタリ。又斯ノ如キ措置ヲ要求セリ。國無キ日ノ保證ヲ回答ナシ。

Doc. 699 A

3

支那に於ける日英間ノ懸案摘要

A — 一般

問題
一 鐵道

(ハ) 上海—南京
鐵道並上海
—杭州—寧波
鐵道

(一) 英人社債所有者ノ爲ニ行フ鐵道線路調査ニ因スル一切ノ便宜ヲ日本當局ガ英人技術者ニ對シテ拒絶セルコト及ビ西鐵道ガ公眾ヨリ利用セラルル收入ヲ奪ゲツル事實ニモ拘ハラズ社債所有者ニ對シテ債務支拂ノ措置ヲ怠リタルコト。

第二回申入

一九三七年
(昭和十二年)

一月十三日
(上海)

四月二十日
(東京)

現 狀

宇垣大將、英國大使ニ九月八日該鐵道ノ地域ハ漢口作戰ノ前後ニ位直スル重要ナル地域ナリト告ゲタリ
英國大使ヨリ爾後ノ申入ニ答ヘテ十二月八日外務大臣ハ調査ヲ可能ナラシムル何等ノ変化モ起ラザリシニ日答ヘタリ。日本政府ハ同政府ガ鐵道線路ノ損害ニ對シ部分的主責任アリト英國政府ノ見解ニ同意セズ。一九三九年(昭和十四年)三月二十四日英國大使ハ該地方ノ軍事行動ガ終結シタルコトヲ指摘シ、社債所有者ノ爲ニ當該路線ノ視察ヲ許可サレシコトヲ求メ且社債所有者ニ對スル債務履行ノ爲メノ措置ガ執ラレタリヤラ質問セリ、上海—南京鐵道ノ法的所有權ニ関シ更ラニ一九三九年(昭和十四年)十月十日外務省ニ對シ數項ノ申入ヲセリ而シテ一九四〇年(昭和十五年)三月二日回答ヲ促セリ、回答ナシ。

Doc 699A

4-a

94-B

支那ニ於ケル日英問題懸案摘要

問題 A
一 鐵道關係

(b) 中部支那鐵道

Central China
Railways / 鐵道

併

傳ハルニ英國權益
ヲ實現スル本段合計畫
ヲ日本政府承認ス
ル日、保証ヲ申請
ス

第一般
第一回申入
一九三九年
(昭和十四年)

四月二十九日

現 狀

一九三九年(昭和十四年)五月二
日及び

七月四日ニ英國大使ニ便三申令
ナシ上海南京地域ニ於テ諸線ヲ
統制スル爲中部支那鐵道會社

THE CENTRAL CHINA RAILWAY CO.

ヲ創ニスル事ニ對シ抗議ヲナシ且

英國ノ權利及權益ヲ充分尊重

スル様況速ニ措置ヲ要請セリ

回答ナシ

回答ナシ

94-B

Doc 699A.

支那ニ於テ日英間ノ懸案摘要

A-1-1 股

一 鐵道關係

津浦鐵道件

INTERNATIONAL
RAILWAY

收中ヨリ必要

額借入金關係

急遽ニ充用ス

ラビキト並ニ

外國人若シテ

遂行スルニ應

備ヤラビキ事

ヲ要求ス

本國申入

一九三九年十月十日

(昭和十三年)

現 狀

一九三九年(昭和十三年)九月十日、日本、同
答ニハ該鐵道が相当ノ損害ヲ被ケ居リ
且、全債務ノ支拂ニ對シ責任ヲ受諾シ
得ヌトスル日本側ノ手ニテ修理中ナリ且述
ベリ。

一九三九年(昭和十四年)五月十五日ニ英國大使
館ハ英國政府が右主張ヲ容認シ得
ル旨説明スルト共ニ英國亦一工兵隊
ノ阻止ハ純粹ニ時的、モノタル事保障
ヲ要請セリ
同答信ナシ

Doc 699A

支那ニ於ケル日英間懸案摘要

A-一般

船舶関係

(a) 汽船セグレス、リタ

及「リタ」抑留事件

/SEGRES//LALITA/

/DHOLERA/

英國汽船セグレス、リタ一九三九年船知事

五三九基(船知事)多個月二十日

四月一日セグレス (セグレス)

/CHAYUAN-BAY/

ニ於テ日本艦隊艦ニ

ヨリ捕獲セル

英國汽船「リタ」五三九基(船知事)

/LALITA/ (八日在電)六月三十日

艦ニヨリ福州附近ニ (リタ)

千四月二十七日捕獲

セル

英國汽船「リタ」

亦捕獲セル日本

海軍ヨリ抑留サ

ル

本一回申入

現 状

「リタ」及「セグレス」三船、所有者が或
種條件ニ是等船舶ノ解除ト
同時ニ賠償ニ対スル要求ヲ放棄ス
ル事ニ同意スル旨提案セシモ拘
留又「セグレス」所有者が該船、
釋放ト同時ニ其、要求ヲ撤回
シテ減額スル旨提案セシモ拘
留今尚全三隻抑留中ナリ該問
題ニ関シ英國大使ヨリ前年十月、
通牒ヲ發シタル結果外務省ヨリ
一九四〇年(昭和十五年)七月三十一日附
以テ日本側事業會社(三井物産)ニ
該船セグレス、リタ場合ニハ日本政府
同意ナクニテハ英國政府ハ該船
ヲ徵用セザル旨、保證ヲ與フル
場合ニハ該船舶ノ釋放ヲ考慮
スベシト回答アリ

支那ニ於ケル日英間、懸念事項摘要

A-1

二船舶関係

(6) 船舶関係
事件 (SPARTAN) 柳

華國海運會社ヨリ
保険ヲ付セラルル事
リヤニ船「パニヤ」
基隆 / KEELUNG

一般

第四申入

一九三八年
(昭和十三年)

三月十四日

現狀

日本海軍局ハ支那ヨリ「パニヤ」ハ
船籍多轉ノ効力ニ付之ヲ承認
スル事ヲ拒絶ス

正當ニ東洋ヨリ「パニヤ」ニ乗リ
ル次第ナリ

一九四〇年五月二十九日、日本側回
答ハ不正轉籍、疑念ハ晴ル迄
船ハ解放セズルハト述ベタリ

Doc 699A

ニ於テ抑留セル

英國大使館之
カ釈放ニ對シテ
公使館ノ要求ヲ受
持ス

7

丁村公使ノ申入次ニ於テヤ公使
タルモノ申入ヲ支持シ得タル昭會
タルモノ等ノ結果モ得ニシカリ

一九四〇年(昭和十五年)三月十一日

英國大使、英國郵政保護會社ニ
該船舶ニ對シテ方障ヲ付拂ヒタル旨
並ニ英國政府ハ該抑留事件ニ關シ
ニ審判心ヲ以テ注視シ居ル旨
ヲ申入シタリ

一九四〇年(昭和十五年)四月十三日

外務省ハスバルタ号ノカリヤ國籍
ハ、移轉カカリヤ國法ニ違拂
正當ニ事件ニシテ之ニ上テ用セラル
ル次第ナリ

一九四〇年五月二十九日、日本側回

答ハ不正懸籍、疑惑ハ晴ルニシ
船ハ釈放ニシタルハト述ベタリ

Doc 699A

支那三於日英關係案摘要

B——上海

内 題

TINKLER

五三三集(昭和十五年)

大東亞

/POOTUNG/浦東

所在支那關稅

會社工場/CHINA

PRINTING AND FIN

-ISHING CO/混成

最中

KLER/上

國(日本)兵三三

致命の被害

より、被害者二

日本帝國

慢且、被害の能

復三、強硬拒絶

三、工場

8 會社工場

PIONEER KNITTING

& MILL/ハナ

社/MIEN-WHATHRE

Co/

亦同甲入

一九三九年

(昭和十五年)

六月十七日

五三三集

(昭和十五年)

九月二十日

現 抹

日英關係、諸權益中長期懸案ト

ナリ居、本件、処理ヲ要求シ一九四〇年

(昭和十五年)五月六日自願從抹ヲ裁奪セリ

同答トシ

該工場、強制接收ニ関シ何事決定ナリ

説明ナリ又依然トシ工場該英國會

社ニ之ヲ及遷入ニ措置採リ 居テ

doc 699A

(日本系)内外リヤ
工場賃金春横山
氏ヨリ該工場、
強制占有反之ヲ
運當不_レ當然
ノ權利ヲ有ス該
東系會社操
業ニ對シ日本官
憲ヨリ加_ヘニ居
ル依然タ_レ被害
ニ對シ抗議ス

79

更ニ一九三九年(昭和十四年)二月六日及一九
四〇年(昭和十五年)三月十日督定狀
ヲ發送ス
同後付十二

支那三於日英間、縣案摘要

B-1 上海

Doc 699A

問題	第一回申入	現狀
二紡績工場	一九四〇年	回答ナシ
(山) 宋興業	(昭和十五年)	
工場 / SUNG	四月四日	
SUNG No. 7 MILL		
日本人所有、同く		
紡績廠 / KUNG		
DAH MILL / 人牛		
三以上記工場		
綿、搬出並ニ其		
他、妨害行為、		
停止ヲ要求、且		
管財人、香港		
上海銀行 / THE		
HONG KONG AND		
SHANGHAI BANKING		
CORPORATION /		
、為該工場ヲ		
接收、為、便		
宜ヲ提修ス		
エト主張ス		

10

支那と於て日英間、懸案摘要

（一）北支

問題

一為積並輸入統
制
北支に於て英國
貿易並外國為替
に對する日本側
措置に依り要求せ
るべし、これに措置
條約上の權利並
側保障に及ぶ英國
政府の行動、權利
留保等、

第二回申入

一九三九年
(昭和十四年)
三月十日

現状

四月十三日、日本、同答、該手段、目的
「聯合準備銀行券の貿易上、通貨
の機能果てなくと確保せしむるに在り、況ん
し、又何等一般の貿易並為替統制を將
入何等差別待遇を計畫せざらん。英
國大使、依て一九三九年(昭和十四年)三月十日
該制限、英國に對し、重大且不當の差別
待遇を構成せしむる有様、居るに日、同答
せり。
一九四〇年(昭和十五年)八月十日、英國大使
最近日本當局に依り、施行せしむる輸入
統制規則に對し、注意を喚起し、英國權
益に對する何等、差別待遇無きべき事
期し、又既に契約済、商品輸入に對し、
許可を與へるに保障せられたる事、
十月二十日、日本、同答、北支官憲が
此等事項を満足すべき方法を既に
考へ置きたる事、並に言及せしむる情勢、
事實に起り居るに日、述べたり。

Doc 699A

Doc 699A

12

支那に於ける日英間懸案摘要

一 北支那

問題
合、各鉱山。
英國、重要權益を見
ず、鉱山、日本官憲、
故、安んじ、事實上、
支那官憲、没収せん。
強硬抗議、是ト答ニ即
刻返還方ヲ要求ス

矛盾中人
一九三九年
(昭和十四年)
八月十四日

現 状
一九三九年(昭和十四年)十月十日。
ROBERT CRAIGIE 卿、該鉱山
バートフリーキ一 郷、該鉱山
返還せん迄、企業聯合、財産
及機械類、保護方ヲ要求、且
ソ日本官憲、煽動ニ就キ証
據ヲ提出ス。
斯、如キ行動、日本政府、子
ス、屢次、保元ニ對シ、頭著、
違背ニシ、大ヨリ良好ニ關係、
復、活、上ニ困難ヲ増大ス。
一九四〇年(昭和十五年)一月十日附、
日本側同合、機械類、
日本軍ニ領、以テ、搬、出、セ、
述、居、
當該確益、王國側代表、正
常ノ條件下ニ、支那側地方官憲
ガ該鉱山ヲ運、官、ス、權利ヲ認
メ、
リ。

Doc 699A

13

支那に於て日英間懸案摘要

北支

問題

事同申入

三、WINGTAO 英國船

船並貿易ニ対スル

差別待遇

三、WINGTAO 英國船

港ニ於テ或種便宜

ヲ与ヘタルト日本

保障ヲ与ヘタル英國

船舶ニ依テ差別待

遇及取扱遲延

対象トナリタリ。

斯カハ諸制限、迅

速ニ緩和ヲ要求ス。

(一九三九年
昭和十四年)

五月十九日

現狀

更ニ数回、連絡後、外務省、一九

〇年、昭和十三年一月二十日、現地軍當局

ニ依リ、最近一層、便宜ヲ供与

スル様措置ガ採ルニ旨同答セリ。

ト伊事實ニ斯ル便宜、實現ス

ルニ至ラザリ。而テ四月十五日、督促

後、英國大使、五月二日、埠頭、收

況ト英國船舶ニ對スル差別待遇

、新ニ事例若干ニ付更ニ申入

ヲナリカハ差別待遇、更ニ他、

事例ニ就テ之ヲ二月十三日、申入

ニ於テ主題トシテ採上ケタルアリ。

何等、同答ス。

Doc. 699A

14

抜萃、

(4)

日本外務省ヨリ入手セルモノ。
國際檢察部書類番号第六九九号。
支那ニ於ケル日英間懸案覽書。

支那ニ於ケル日英間懸案摘要。
C — 北支那。

問題

四、武定府、ナニヤ(朱家?)ニ於
ケル英メソヂスト傳道會焼失。
英國メソヂスト傳道會、支那
游擊隊ニ對スル所謂治療、廉
ヨリ其報復トシテ、十二月二十日
日本軍ニ依リ焼拂ハル。
強硬抗議、即時調査ヲ要求
ス。且ツ賠償請求、權利ヲ留保
ス。

第一回申入
一九四〇年
(昭和十五年)
一月九日

現 狀

該傳道會、排日運
動、中心ト為リ居
リシヲ発見セラレ、依ッ
テ日衛上焼拂ハル。
ルモノナリト、日本側
ヨリ二月十二日附四答
アリタリ。
日本軍隊、行動、
全ノ理不盡ニシテ
責背スルモノナリト
英國政府ハ思考ス
ルモノニシテ、此、種事
件再発防止、徹底酌
措置ヲ採ラズモ、
ト信ズル旨英國大使
ハ四月十八日附四答アリ

支那ニ於ケル日英間懸案摘要

D. I. 中部支那

Doc 699A

問題

一 爆撃事件

(a) /CHUNKING/
重慶

一九三九年五月四日、
日本機ニ依ル空襲ニ於
テ一爆彈ハ英國領事
館現地人館員宿舍
ニ於テ入リ殺シ十人傷
ケタリ。又ハ英國政府
ノ財産ニ對シ甚大ナル
損害ガ與ヘタリタリ
嚴重抗議ニ無差
別爆撃ヲ停止スル
様指令ヲ送スルコト
ヲ要求ス。

第一回申入

一九三九年
(昭和十四年)
五月十二日

現狀

是等ノ申入ニモ不拘屢次、重慶無
差別爆撃ニヨリ英ノ財産ニ對シ更ニ
損害ガ與ヘタリタリ。一九四〇年六月ニ曾
更ニ重大ナル損害ガ英國總領事館ニ與
ヘタリ。總領事ノ宿舍ハ破壊セラレ、又他、
二個ノ家屋モ被弾セリ。一九四〇年
八月五日、英國大使ハ聯合王國政府、
是等ノ攻撃ニ関スル權利ヲ留保
セザルベカラザル事。日本政府ハ英國人ノ
生命財産ニ對スル如何ナル傷害ニモ
充分責ヲ負フベキ事。而シテ近
ク損害賠償請求ヲ提出スベキコトヲ
述ベタリ

Doc 699A

16

支那 = 於此日英問題案摘要

D — 中部支那

問題

一 爆撃事件 (續々)

(b) 宜昌 (ICHANG)

一九三九年 (昭和十四年) 八月六日
THE ASIATIC PETROLEUM CO.
細野石油會社、施設及びタータン
JARDINE, MATHESON & CO.
モリス會社所有、汽船二隻破損
該船上ニ在リ之英國將校一名及支
那人水兵二名 日本機、空襲ニヨリ
負傷セリ。

外國、權利を侵害スル日本政府、保
證ニ就キ注意ヲ喚起シ爾後一層
嚴重ナル命令、發セラルベキヲ要シ
賠償要求、權利ヲ留保ス。

第四回中六

一九三九年

(昭和十四年)

八月十一日

現狀

回答ナシ

Vo. 157

Doc 699A

②

支那ニ於ケル日英同縣警察摘要

D-1 中部支那

問題

一 爆撃事件(續々)

(C) パーホイ / PAKHOI /

一九三九年(昭和十四年)英國

總領事ヨリ衣東駐在自本

總領事ニ対シテ記病院突

シ詳細ヲ蒙リ通達シテリシモ

拘テ一九三九年(昭和十四年)

八月二十九日。パーホイ / PAKHOI /

支那傳道堂学校病院爆撃事

ナル。調査及再發防止措置ヲ

要ス。

憲回中入

一九三九年

(昭和十四年)

九月十日

現 狀

回答 ナシ

支那ニ在リル日英間懸案摘要

Doc 699A

③

D-I 中部支那

問題

(一) 爆撃事件 (續々)

(a) 平江

三月十五日英國メソヂスト傳道

會爆撃、際エイ・ダ・リン

牧師 REVEREND AG. LEWIS 爆死ス

之ニ対シ抗議ヲ再発防止

確保スルニテ措置及陳謝

表明方ヲ要望シ且ツ

賠償要求ノ權利ヲ留保ス。

第回申入

一九三九年

(昭和十四年)

三月二十六日

現状

五月十日送附、督促

然モ拘テ回答ナシ

Doc. 699A

19

支那ニ於ケル日英間、懸案摘要

D-I 中部 支那

①
向 題

爆撃事件 (續キ)

(c) 西安

ロニキニス・バートン
英國バプテスト傳道會記
念病院ハ明瞭ニ標識セシメ
景ニ上海ニ於テ該病院廣
シ屢次申入ヲ為シアリシモ
拍ラズ右病院、一九三九年
昭和四年)三月八日、日本航
機ニ依リ爆撃ヲ受ケタリ。
南場中ノ劇場ハ破壊セ
シ又、他ニ被害アリタリ。
調査、再發防止、保証及
陳謝表明ヲ要求ス。
賠償請求ニ対スル權利ヲ保
留ス。

第一回申入

一九三九年
(昭和十四年)

三月十三日

現 狀

九月十日ニ送附セラレタリ
督促狀ニ拘ラズ同
答ナシ。

Doc. 699A

20

支那ニ於ケル日英問題案摘要

D - 中部支那

問題	第一回申入	現狀
二 中支銀行 /CENTRAL CHINA BANK/ 新發券銀行が南京 當局ヨリ設立セラルト 報道盛ナリ。 カ、此措置ハ第三國、領 土向並ニ日英關係ニ最 モ不幸ナル影響ヲ与 スベシ、而シテ日本側、保 障ト兩立セザルベシ。 情報ヲ要求ス	一九四〇年 (昭和十五年) 五月二十七日	十月二十三日英國大使ハ中英 發券銀行が十可業務ヲ開 始スベキ旨表明セル南京政府 財政部大臣、聲明ニ對シ注 意ヲ喚起セリ。バード・エ イガー卿 /SIR ROBERT CRAIGIE/ 同銀行設立ヲ防 止スベキ措置、トセル事ヲ 求メタリ。 回答ナシ。

Doc. 699A

21

支那ニ於ケル日英同懸案摘要

D - 中部支那

三九江/KUKIANG/英領
臣民が自己、財産ヲ再保
有ス事ニ対スル拒絶
バターフィールド・ス
ワイヤ会社/BUTTERFIELD
AND SWIRE/ジャ
ーディン会社/JARDINE
MATHESON AND CO./ア
シヤ石油会社/ASIATIC PETR
OLEUM CO./及英米煙
草会社/BRITISH-AMERICAN
TOBACCO CO./代表、九江
帰還、許可ヲ拒絶セ
ラリ。然レ他國ニ多
ク、ガード・オブ・石油會
社/THE STANDARD VACUUM
OIL CO./代表等
ハ、帰還可許可セラル。
日本政府が此種、差別
待遇ヲ支持セトス。

第五回
五〇年
(昭和十五年)
五月二十四日

現狀

六月二十五日、日本側回答ハ、タ
ーフィールド・スワイヤ会社及ア
シヤ石油會社、帰還ハ、軍事的必要ニ
ニ不可能ナリ。事、ジャーディン・
ワイヤ會社場合ハ、同社、利敵行為、
為シ許可ガ保留セリ居リ。事、然
レ英米煙草會社ニ対シテハ、條件
下ニ帰還、許可ガ既ニ与ヘラ
ル。尚述ベリ。尚英國國廷對テ
ニ差別待遇、意圖ハ、無カリト事。

ニ非ザルモト推定ハ具當
商社ノ九江停退ノ許可
ガ可及的速クニ合ハルベキ
コトヲ主張ス。

doc 699

23

支那三於上日世同、懸案摘出

D-中支那支那

向題

四、/YANGTSE DELTA RE

揚子江・三角洲

STRICTION ON BRITISH SHIPS
國貿易ニ対スル制限

揚子江・三角洲ニ於テ
次、如式日本軍、行動ニ
関シ注意ヲ喚起スル上、

(a) 領土ノ許可制ニ定
企圖

(b) 英國系船舶ニ対スル直
接干渉

(c) 支那側ノ脅迫手段ニ
ヨリ英國船舶ニ対スル差
別待遇。

英國政府ハ正當ナル貿易
ヲ制限セシムル日本官憲
ノ權利ヲ許容シ難シ。

加之、南京當局ハ皮、
適ニ向テ出港セシムル船
舶ハ許可証、外追加
水航行許可証ヲ主權
官廳ヨリ取得スベキ旨

義同中人

一九三九年

(昭和十四年)

有六頁

現狀

地方官憲ニ対シ通令ヲ指令、發
令ニ付テ要求セル六月二十日附督
促狀送附後、日本政府ヨリ九月二十日
附テ以テ支那總領事及日本軍一兩營
局ハ軍、必要上各々權限内ニ於
テ行動シ居ル旨回答セリ。

doc 699A

最近上海總稅司通達
 凡在稅關管理及食
 的外國貿易，雙方對
 不爭，如曾於此
 適當之指令，即刻發
 之，以作要求。

支那に於ける日英關係の概要

D - 中部六部

Doc 99A

問題

五、揚子江航行
行英國船
船二対大艦
別待遇

(A) 日本船舶
三條に並置
貨物、出荷、
現在何等制
限を有するに
非ず

(B) 右三條に並
置せしる貨物
今、公運貨物
受取船隻得る
を得ず

(C) 或場所於て、
終、輸送自由
を商民に課
せしむ

第一回中入

一九三九年
(昭和十四年)
四月十日

現状

一九三九年(昭和十四年)七月日英
大使、彼乙及伊太利船舶が好過
多、結果英國船舶が損害を蒙り
居る事、並、四月十日以降一般狀勢
悪化、三度、此を指摘せり。
回答無三。

25

支那ニ於ケル日英商懸案摘要

D - 中 部 支 那

Doc 699A

問題
揚子江流域
鰾卵貿易
三井物産会社
MITSUI BUSSAN
KAISHA / 揚子
江流域ニ於ケル鰾
卵貿易ノ実質
的ニ被占セリ會談的
英國貿易ニ對
スル是等妨害ノ除
去ヲ保障スベシ
カニ適切ナル措置
ヲトラシメフトヲ希

望ス

中 部 支 人
九三九年
(昭和十四年)
十二月十日

現 状

十二月四日、日本側回答ニ依リテ現地解
決ヲ期待セラル、自述ベアリタリ一九四〇年
(昭和十五年)一月二十日英國大使ガ自余、
若干之障礙ニ付注意ヲ喚起シ見次ヲ、
然レ外務省ハ再々現地解決ヲ期待シ居ル旨
弁明セリ。一九四〇年十月十四日英國大使
ハ日本軍當局ガ鰾卵貿易ニ關シ揚子
江流域ノ他及他ノ主要輸出品ニ關シ
更ニ他ノ措置ヲ實施セシムヲ提議セルヲ實
ニ付注意ヲ喚起セリ。英之權益對スル此種
續的妨害ヲ終熄セシムル様速カニ措置
ヲトラシメ事ヲ要望セリ。

回答無シ

支那ニ於テ其日英同盟案摘要

一 南支那

Doc 699A

問題
一 廣東 / CANTON
廣東及大蔵貿易
易
十月十日、廣東ニ
於テ布告ヲ發セ
ラシメ、後リ廣東
並大蔵貿易、明白ニ
日本軍當局ニ條ヲ
禁止セラシ此等物
資對テハ犯スガ
日本商社數社許
與セラレタリ此計
劃遂行ヲ防
スベキ措置ヲ要
ス

中一四申入
九三九年
(昭和十四年)
十二月四日

現 狀

九四〇年二月十五日、日本側國答ニ、
既ニ取テラレタリ、指西區、軍自給、為
不可避、指東區、其是アリ。

支那三於九日英同縣志案摘要

三 南支那

Doc 699A

同 題
二 年一 月 一 日
SHARP PEAK 向
既 船 提 議 案
外國 船 隻 在 福州 之 航
外國 船 隻 之 船 隻 補 食
糧 食 補 給 料 等 子 每 日 自 開
毛 國 平 十 二 日 之 航 運
英國 船 隻 運 搬 便
提 案。
日 本 政 府 公 道 的 見 解 等
三 同 意 六 年 三 月 停 止
三 三 月 頭
(三) 港 口 使 用 制 限
三 港 口 自 本 年 五 月 後
同 三 月 中 三 國 船 隻
三 行 三 國 同 受 限 制
上 三 國 領 事 之 居 止
現 在 相 當 三 國 貨 物
日 本 船 隻 三 國 港 口
荷 荷 三 國 之 三 國 港 口
軍 必 要 上 三 國 領 事
主 張 六 國 領 事 通 關 案
該 港 口 再 開 放 子 案 案 案

才 重 申 入
九 四 年
(即 知 十 五 年)
自 二 十 二 日

現 狀
回 答 十 三。

九 三 九 年
即 知 十 四 年
十 月 十 二 日

九 四 年 (即 知 十 五 年) 二 月 十 七 日 附 日 本 側
向 港 口 提 議 案 上 限 續 行 九
國 之 然 下 三 國 港 口 三 國 政 府 案
同 關 之 三 國 港 口 三 月 十 六 日 英 國 大 使 案
早 三 國 必 要 三 國 港 口 領 事 大 使 案
早 三 國 必 要 三 國 港 口 領 事 大 使 案
然 九 日 本 船 隻 三 國 港 口 三 國 領 事 大 使 案
三 國 計 案 三 國 港 口 領 事 大 使 案
同 港 口 再 開 放 子 案 案 案
三 國 計 案 三 國 港 口 領 事 大 使 案

回 答 十 三。

28

Doc. 699A

支那ニ於ケル日英間、未解決事件、摘要

E - 南支那

題目 第一提議 現況

三、汕頭續ク

ト輸出入物ニ對スル関税

汕頭復興委員會ハ税務局ヲ設立シ輸出入
物品ニ對シ任意寄附ニ依ル刺縫物、積出同
様ニ課税シテ居ル、支那海關税權、侵害
停止ヲ要求ス

一九四〇年二月十日

二月二十三日本側、回答ニ依リテ調査中ト、

コト

Page 28B

支那に於ける日英問題案摘要

9

Doc 699A

29

問題

四香港領海侵犯
 紀及ジャコウ攻撃
 香港三船籍ヲ有スル
 或ハ香港市場ヲ侵ス
 現中ノ事ヲ示ス元是
 年昭和三年九月
 以来日本海軍ニ依
 リ頻繁ニ攻撃ヲ
 行フ。是等ノ事件ハ
 屢ニ香港領海侵犯
 事件ナリ。

第一回要人

現状

英國大使ハ是等攻撃ヲ停止
 セシムル様屢次抗議ヲ申入ル
 ルモ未ダ戒めス。斯レ攻撃ハ依
 然繼續行サレシメテリ。

中国ニ於ケル未解決日英案件綱要

要求事項 下

問題

(一九三三年)昭和十二年
十二月五日、十一日及十二日
於ケル楊子江事件ニ関
スル要求
(是等ノ事件ニ関シ日本
政府ガ賠償ヲ約束セル
公文ニ従ヒ之ヲ提出セリ)
價格、一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

第一回復讞

一九三八年/昭和
十三年/四月四日

現況

一九三八年/昭和十三年
九月一日、コシ等ノ要求ヲ渡
更スルコトヲ、公試、申シ
立ニテ行ヒタリ。十月十日
ニ口頭ヲ以テ、又十一月
ニ文書ヲ以テ、日本政府
ハ十二月以上前ニ相手ノ
情報ヲ得タル旨指摘セリ。
十一月十二日附日本政府ノ
回答ニ依リ、当局ハコシ等
ノ要求ニ関シ熱心ニ執務シ
ツアルモ調査ガ未完成
ナリトイフコトナリ。一九三
九年/昭和十四年十一月三日、
賠償金ヲ支拂フベシトイ
フ保證ハ既ニ與ヘラレシ
タルコトヲ日本政府ニ注意
セリ。従ツテ原則ニ於テ
何等ノ難点ナキコトヲ指摘
セルナリ。如何ナル困難ノ
タニ九月十日モ遅延セルヤ
之ヲ迅速ニ取極ムルカ又ハ

Doc 699 A

30

Doc 699A

31

之ニ関スル情報ヲ齎スル何カ
ヲ要求セリ。

外務省官吏ト大使館幹部ト

一九三九年／昭和十四年／二月

二十三日、三月二十四日、及四月二十

五日並一九四〇年／昭和十五年／

二月十四日、三月十六日及十月三十一

日、細目ニ関シ討議セリ。外務省

ハ要求セル詳細ナル情報ヲ今

シ得タルヲ以テ、ソノ間若干ノ

通信ヲ行ヒタリ。然ルニ日本代

表ハ先般クル等ノ要求取極ニ

対スル具体案ナカルコトニ言及

セルモ未ダソノ提出ヲ見ズ、

支那ニ於ケル日英同縣治安摘要

下——損害賠償請求

Doc 699 A

32

汽船問題
ASLAN
汽船アスラン号
日本海軍ニヨル二月
七日乃至同月二十日、
同該船、不法抑留
ニ因リ生ジタル損害
及抑留中同船上ニ
在リシ物件、盗難
ニ對スル賠償請求。

第一回中人

一九三八年昭和十三年五月一日

現状

日本政府、六月三日附回答中ニ同
船ニ関スル書類不立分ナル旨申述セ
テ、マコト出港、際船長ヨリ領收証壹
通提出セシアリト、コトニテ同船抑
留中ノ物件盗難ヲ否認セリ。
九月九日英國大使、同船ノ文書ニ
關シ其ノ情況ヲ説明セリ。
外務大臣、該書類ノ所謂不完全
ノ理由ニ同船ノ抑留ヲ合理ヅケント
努カシ同港当局者トノ無線打合
セヨリ抑留ハ避ケ得ラルベカリシ
旨ヲ指摘セリ。
船長、與ヘタル領收書ハ全ク個人
的ノモノニシテ船内用ノモノナリ。
日本側、十月四日附回答、日本ハ全
責任ヲ取ルコト能ハス而モ船長ハ
其ノ領收書中ニ萬分遺憾ナシト申述
ベ居ルヲ以テ、申立ラシタル盗難ニ関
スル該問題ニ對シテハ之以上論議、
余地無シト主張セリ。

Doc 699 A

支那に於ける日英同懸不安摘要

下—損害賠償要求

問題	第一回申入	現状
三、香港領海侵	一九三八年	一九三八年八月十五日、英國大使、覚
紀並三、中、攻撃	(昭和十三年)	書、日本、申明、容認、シ得、ル旨、ヲ述、ベ
ヲ含む、所作	一月五日	且、之、依、リ、香港、邦、債、三、万、四、百、六、十、九、千、
(四)一九三七年九月		賠償、請求、ヲ提出、セリ。
二十三日出漁中、		九月十九日、日本側、回答、ハ、責任、問題
ジャンク若干、六日		ヲ考慮、スル、ヲ拒絶、セルモ、英國、臣、民
本潜水艦、依、リ		タル、国籍、ヲ有、シ、且、日本、軍、艦、ニ、対、スル、攻
沈没セリ		撃、ニ、参加、セ、ザリ、シ、コト、ヲ証明、シ、得、ル、漁、夫
		對、スル、好意、的、無償、支拂、ヲ申出、セ、タリ

支那ニ於ケル日英問題懸案摘要

フー損害賠償請求

Doc 699 A
問題
三、由一九三八年(昭和十三年)三月十日、日本側、武装モーター・トロール船ヨリ四隻ノジャックが攻撃せし且ツ拿捕せん。

(C) 一九三八年(昭和十三年)五月三日
香港出帆ノジャック上ニテ日本兵ヨリ犯サレタル海上掠奪及殺人行爲

第一回申入
一九三八年
(昭和十三年)
二月二十六日

一九三八年
(昭和十三年)
六月十七日

現状

三月八日附日本政府ノ回答ニハ本件ハ、英國領海内ニテ発生セルモノ非ズト申述ベアリ。

四月二十七日附英國大使ノ書面ハ問題ノ該ジャックが日本政府ノ回答中ニ述ベラレタルモト相違スルヲ明クセリ。同日附英國大使ノ之ニ關スル他ノ書面ヨリ香港希償一萬二千ポンドノ損害賠償請求ヲ提出セリ。

回答 トシ

英國大使ハ才三回ノ書面ヲ七月八日外務大臣宛ニ提出シ同大使ハ是裏ニ提出セシ書面ノ詳細ヲ反復セリ。

更ニ十月三十日附ヲ以テ香港希償一萬千七百七十二ポンド五十仙ニ對スル賠償請求ヲ提出セリ。

十二月六日附日本政府ノ回答ニハ日本軍艦ガ若干ノ敵對セルジャックヲ処置セシ多件アリシモ、英國大使ノ七月八日附書面中ノ申立ニ該當スル事實無シト申述ベアリタリ。

Doc 699A

支那に於ける日英間懸案摘要

下——損害賠償請求

問題

四	月(日)空襲入	本同申入
除	於此福州、仁多、廈門地	一九三八年 (昭和十三年)
於	此空襲五領事館、	七月九日

損害

現状

二百十五磅七四片、損害賠償請求
於一九三九年五月三日英皇大使
ヨリ提出せられた

回答

35

Doc 699A

Page 36

支那ニ於ケル日英同難実業摘要
F-1 損害賠償請求

△

問題	手回申入	現状
<p> 大々月十日及 月十日、反英示 威行道、除心 起ケタル反英示 及兵備、英領 事館並英國財 産ノ損害 </p>	<p> 一九三九年 十二月十八日 </p>	<p> 十二月十八日、英國大使館ヨリ支那債権者十五百五 十四兩五及米幣債三十兩七十五仙ノ損害賠償請求 が提出セラレタリ。一九四〇年一月三日、日本外務省ハ 支那ニ於ケル反英運動ハ自然発生ノ事、支那 機関が取締ラセシ居タレバ事件ハ英支双方ノ現 地當局間ニ協議セラルベキモノナリト且日本政府ハ 責任ヲ負フべき義務モ有テ主張スルモ之ノ理由 モナキ事ヲ(回答ニ来タリ)英國大使館ハ一九四〇年 (昭和十五年)二月二十日附覽書ニテ英國政府 ハ「支那地方政權ヲ認メタル事、青島並ニ芝 罘ガ日本軍ノ実力アル占領下ニアル事、且日本政 府が騷擾ヲ好ム責任アル事ヲ指摘スル。七月 二十二日附條文ハ斯ル場合ヲ包含スル如ク 意図セラタリモノナリ。故ニ英國大使館ハ彼 等ノ主張ヲ支持セリト。三月二十日附覽書ニ 英國大使館ハ外務省ノ速クモ回答ヲ ボケタルニモ拘ラス、イタソノ回答ヲ得ズ。 </p>

支那ニ於ケル日英同懸案摘要
下——損害賠償請求

Doc 699 A

問題

第一回申入

現状

大 / IMPERIAL AIRWAYS
英帝皇航空会社航空機
DARDANUS / ダーダナス
一九三九年(昭和十四年)
二月八日南支那アーク
重州ニ於テ攻撃ス
英皇大使、該事件ニ関
シ強硬抗議申入、又
何処ニ飛翔ニ居リタルニ
民間機ニ攻撃スル事、
甚だ不當ナル所為ナルコ
ヲ指摘セリ。
該航空機、属籍ハ日本
側當局ニ當然明確ナ
シタリ。
英皇政府ハ英皇大使
早政府宛一九三九年
(昭和十四年)二月三十一日附
通告シ置キタル通り
地域如何ニ同バズル特
定地域ヨリ英皇機

一九三九年
(昭和十四年)
二月三十一日

英皇大使一九四〇年(昭和十五年)
一月十日ニ被害及損失ニ対シ十七百六
ホドハ志三片、請求ヲ提出セリ。
該航空機ハ蒙レル相当、損害及英皇
官憲ニ返還セラレシ際、同機、航空機
トシテ使用不可能ナル状態ニ記述セル本
請求、明細書、二月十三日英皇大使館
ヨリ提出セリ。之ニ対スル回答ナカ
リシ故、急速ナル解決期待シ得ルヤ
否ヤ同答スル為、外務省宛三月三十日附
以テ書面ヲ送附セリ。
四月三十一日附回答中ニ外務省ハ修理
ニ就テ日本官憲ハ当時義務的事項
トシテ何等指置ヲ採ラザリシモ得ニ
鄭重ナル取扱ヲ與ヘリ。
故ニ該事件、如何ナル損害ニ対シ
モ日本政府ハ何等責任ヲ取ルベキ
理由ナシト申述ス居リ。

37

38

Doc 699A

ヲ排除スル權利ヲ日本
政府側ニ許容セザリシ
所ナリ。
英王大使、亦五日間ニ
皇國機嫌從士三名、抑
留ニ付シ、強硬抗議ヲ申
入レ、賠償請求ノ權利
ヲ留保シ、且ツ斯、如キ事
件、反覆多阻スル為、
訓令ハ關係日本側出
先官憲ニ對シ、宛セラル
事、保障ヲ要求セリ。

支那ニ於ケル日英間懸案、摘要

五 — 損害賠償請求

Doc 699A

問題

七、一般請求
一九三八年(昭和十三年)六月二十
日乃至一九四〇年(昭和十五年)
十一月十一日、間支那ニ於ケル日
本軍作戦、結果英五人、
蒙リタル損害ニ関スル十四口、
賠償請求ヲ提出セリ。
加之、M. HAYWARD/
H. (イブート氏及
MESSRS. BUTTERFIELD & SWIRE/
バタフィールド及スワイア社
IN RESPECT OF THEIR HOKAI 社
(漢口ニ於ケル該社ノ北海職員
STAFF QUARTERS AT HANKOW/
宿舍関係) 関係賠償請求モ
別途提出セリ。

第一回甲入

現 状

一九三八年
(昭和十三年)
六月二十一日

請求總額四十一萬
四千六百五十四ポンド四
シリング、セペンス、
合計五十九ポンド二シリング
セペンス、
撤回セリタルモノト見做
シ得。
外ニ二十九ポンド十七
シリング、ニペンス減額セ
ラルタルモノモアリ。
随テ首題関係ノミニテ
未済残額八十四万九千
六百二十四ポンド、五シリング
ニペンストナル。

39